

総合海洋政策本部参与会議（第65回）議事概要

- ◆日時：令和4年7月27日（水）10時00分～10時50分
- ◆場所：霞が関東急ビル16階 内閣府 宇宙開発戦略推進事務局大会議室
（Webex併用）
- ◆議事概要（参与の発言は○、事務局の発言は●で示す。敬称略。）

1. 開会

〔二之湯海洋政策担当大臣より冒頭ご挨拶。各参与より自己紹介。互選により田中参与を座長に選出。田中座長が内藤参与を座長代理に指名〕

2. 報告等

〔資料1-1から資料3-2について、田中座長、内藤座長代理、事務局から説明。以下、意見交換。〕

- 資料3-2の3ページに「海洋等の先端的な重要技術の実用化に向けたプロジェクトを強化し」とあり、「速やかに5000億円規模とする」と書いてあるが、5000億円とは何か。予算で5000億円確保するという意味か。
- そうである。昨年度までは2500億円が基金という形でお金を積んでいるが、今後5000億円に基金を積み増すとともに、この基金を使い、先端的な重要技術の開発を支援していくということ。その中に海洋関連の事業も位置づけられることになる

3. 参与会議の審議体制について

〔資料4及び資料5について、事務局から説明。以下、意見交換。〕

- 今後の審議体制について、基本計画委員会を作ってやっていくことと、これに加えてPTを設置する。今回は海洋基本計画を作成することから、意見書を12月に提出するというので、ここ何年かと比べると大分早い。参与会議は意見書を提出した後、1月から何をするのか。例年でいうと、工程表を見直していかなければいけないと考えればよいか。
- 年明け以降の参与会議の具体的な議題については、意見をいただいた後の政府の取組の状況について、節目で報告をするかもしれないし、あるいは次期計画期間内において重点的に議論するものがあれば、そういった意見を賜って、準備することもあり得るかと思う。
- 1月以降については、事務局と相談させていただいて、進めさせていただ

く。

- 資料5の2ページ目の「4. 今後のスケジュール案」のところで、第1回の議論の案、メタンハイドレート、石油・天然ガスに係る産業化に向けた取組とあるが、日本が2050年カーボンニュートラルを目指していく中で、石油・天然ガスという化石燃料といわれる分野に関しても、産業化をしていくという方向の議論が計画されているのは矛盾していないか。2030年温室効果ガス46%削減という目標を掲げていく中で、これもやっていくという議論を行う意味がよく分からなかった。
- 産業化に向けては、第3期基本計画において一定の商業化がなされるかという理由つきだが、既に目標が立てられている。海洋基本計画を受けた後、資源エネルギー庁において、海洋エネルギー・鉱物資源計画という、より具体的な計画を定めている。例えばメタンハイドレートについても、民間主導の商業化のためのプロジェクトが2023年度から2027年度に開始されることを目指すということで、具体的な目標を書いている。今回は、こうした目標も含めて、さらにその後の情勢を踏まえて議論し、目標を定め、具体的に実施していく、こういった議論にもっていけると思っている。
- 今日、ここで議論してもしょうがないのでPTの中で議論をしっかりと行っていただければよろしいかと思う。
- 全般的に言うと、カーボンニュートラルという方向もあるが、ウクライナ侵攻があって、ロシアが天然ガス等を売らないという話になっていたり、あるいはロシアから買わないという動きもあるので、いろいろな要素をひっくるめて考えておかなければいけないということだろうと思う。
- 今の点だが、長期的に考えれば、参与のおっしゃるとおり、もちろん脱炭素化という流れは確実なものだが、そういった過程の中で、石油・天然ガスが本当にゼロになることではないだろうということなので、我が国としての海洋資源を産業化させていくといったことは、並行して行うと思うので、そこは両立できるようにしっかりと議論していければと思う。

〔田中座長が佐藤参与をPTの主査に指名〕

- 先ほど骨太や新しい資本主義のグランドデザインの中でもメタンハイドレート、レアアース泥といった言及があった。資料5には、お話にあったようにロシアのウクライナ侵攻とか、最近の話がある。そういうことで、海洋資源はますます重要なものとなると思う。一方で、第61回の参与会議では、経済安全保障をめぐるいくつかの論点という資料が提出されており、その中で各省庁の今の施策が全て経済安全保障で正当化されないかという問題提起が

あった。これは非常に重要だと思っており、そうならないためにも、改めて、オープンイノベーションによる生産量向上・コスト低減、周辺海域の資源量調査、商業化に必要な条件の検討に関するビジョンを示すことは、大変重要になってくると思う。ぜひ参与の皆様には時間の許す限り、このPTに参加いただいて、議論していただきたい。先ほど参与からカーボンニュートラルの話があった。2030年には46%削減とこのことがあるので、経済安全保障上重要だからと言って、野放しにCO₂を排出するというわけにはいかない。ぜひその方針についても議論していきたいので、参加をよろしく願います。

4. その他

[次回の参与会議開催について、事務局から説明。]

5. 閉会

以上